

日本ビジネスコミュニケーション学会

ニュースレター

第10号

2011年1月15日

ホームページ <http://www.abcj.org/>

2月19日開催 グローバルビジネス研究部会 講演会

中国リスク 石平氏（評論家）

講演：15:00～16:30 懇親会：17:00～19:00 拓大文京キャンパス D301

前号でお知らせしたグローバルビジネス研究部会講演会を2月19日に拓大で開催致します。

中国には日本の企業が3万社以上進出しており、従来のアメリカを抜いて最大の貿易相手国となっています。しかし、昨年の尖閣列島問題、レアメタル問題などで強圧的に振る舞う中国に対して、日本人の反中感情が一気に高まり、実に8割以上の人々が中国に親しみを持たないと答えています。共産党の一党独裁の下、資本主義と共産主義の矛盾を抱えながら急激な経済成長遂げ「新・超大国」へ進む中国とのつきあいは様々な点で大きなリスクが伴うようになってきました。隣人である中国は本当に信頼できるのか、このままビジネスを続けてよいのか、今後どのようにつきあったら良いのか、日本の将来に関わる非常に重大で難しい課題です。

中国に生まれ、中国に育ち、天安門事件を体験し、誰よりも中国を知る人、石平氏が中国の真実をお話します。

石平 1962年、中国四川省に生まれる。北京大学哲学部を卒業。1988年来日。神戸大学文化科学研究科博士課程修了後、民間研究所勤務。2002年に『なぜ中国人は日本人を憎むのか』（PHP研究所）を著して中国における反日感情の高まりについて先見的な警告を発して以来、評論活動に入る。著書に『「日中友好」は日本を滅ぼす一歴史が教える「脱・中国」の法則』（講談社+α新書）、『日中の宿命』（扶桑社）、『論語道場』（致知出版）、『謀略家たちの中国』（PHP研究所）などがある。2007年末に日本国籍に帰化。産経新聞本紙にて「石平のChina Watch」隔週コラム連載中。

開催日：2011年2月19日 受付：14:30より 講演：15:00～16:30 懇親会：17:00～19:00
会場：拓殖大学文京キャンパス 講演会：大学院棟 D301 懇親会：C館7階ラウンジ
主催：日本ビジネスコミュニケーション学会 グローバルビジネス研究部会
会費：学会員：無料 非会員：2000円 学生：無料
懇親会（軽食・飲み物付き）：参加費1000円、学部生・院生500円
予約は2月14日まで

申込：下記に記入の上、2月14日までに rkitade@ner.takushoku-u.ac.jp 北出宛お送りください。
ただし会場の都合により、先着順で40名までとさせていただきます。

1. 講演会と懇親会に参加します。

① 会員氏名：

② 非会員氏名・勤務先等：

2. 懇親会（軽食・飲み物）に参加します：

① 会員氏名：

② 非会員氏名・勤務先：

中国最高の学術機構・社会科学院と共催！ 「日中フォーラム」(仮称)4月開催を準備中！

開催日：4月16日（土）、または17日（日） 場所：拓殖大学C館

中国の社会科学院は中国政府のシンクタンクであり、最高の学術機構です。この社会科学院と共催で日中フォーラム（仮称）を開催予定です。概略は以下の通りですが、詳細は追ってお知らせします。

主 題：国際ビジネス競争と経営戦略情報

概 要： 上記主題に関する個人研究発表を中国側研究者6名、日本側研究者6名、計12名が一人30分ずつ発表する。本学会から3名が発表予定。

開催日：4月16日土、または17日のどちらか1日

時 間：9：30～17：30 以後懇親会

会 場：拓殖大学文京キャンパス C館201教室（予定）

主 催：アジア現代経済研究所、日本ビジネスコミュニケーション学会、
日本ビジネスインテリジェンス協会

共 催：中国社会科学院（中国国務院直属の最高の研究機関）、

協 力：拓殖大学北出研究室

参加者：約200名

中国各地の大学、研究所から約50人の優れた研究者が参加します。また日本側からは、社会科学院の日本の出先機関であるアジア現代経済研究所、日本ビジネスコミュニケーション学会、日本ビジネスインテリジェンス協会から、合計100～150名の参加が見込まれます。

参加費：無料

イスラエル大使館より「国際ホロコースト記念日写真展」のご案内

1月27日（木）午後6時30分より 汐留メディアタワー

イスラエル大使館より1月27日の国際ホロコースト記念日に開催する写真展「記憶の断片 資料と写真が語るもの」PASSPORT to freedom と記念レセプションのご案内がきました。

昨年11月の第1回関東支部大会で北出明氏に「CSRの原点を探る—ユダヤ難民の人道的輸送」の講演をして頂きましたが、その後、講演者と敦賀市の協力でイスラエル大使館主催の写真展が実現しました。学会でもご案内させていただきます。

1940年、在リトアニアの日本領事館において、杉原千畝氏が発給した命のビザを手に、ホロコーストの嵐が吹き荒れるヨーロッパを逃れ、福井県の敦賀港にたどり着いたユダヤ人たち。その長い自由への道のりは、彼らの記憶の中にどのように留められているのでしょうか。当時と現在のスギハラ・サバイバーの足跡と横顔を紹介する写真20点の展示を開催することになりました。写真展だけでなく記念レセプションも開催致しますのでご参加ください。（案内文より）

日時：1月27日（木）午後6時30分より

会場：汐留メディアタワー（共同通信社本社ビル）

アネックスセミナールーム 東京都港区東新橋1丁目7-1

最寄駅：大江戸線汐留駅徒歩1分・JR新橋駅徒歩5分

申込はイスラエル大使館広報室担当中山・川野さん

電話：03-3246-0561 E-mail: information@tokyo.mfa.gov.il

申込は会場準備の都合上、1月24日（月）までをお願いしたいとのことです。

以上